

砂防

ふくしま

第4号

福島県砂防協会機関誌



平成9年度「土砂災害防止」に関するポスター部門



砂防部長賞 受賞

福島市立飯坂小学校6年(当時) 吉田 文也君

◆土砂災害防止月間

6月1日(月)～6月30日(火)

うつくしま、ふくしま。

安全・安心・豊かな県土づくり

【みんなで防ごう土砂災害】

CONTENTS

- 平成10年度砂防関係事業概要……………1
- 砂防ニュース・SABO NEWS……………2・3
- 砂防事業紹介……………3・4
- 平成9年度砂防協会活動報告……………5・6
- 平成9年度「土砂災害防止」に関する入賞作品(ポスター・作文部門)
表・裏表紙

平成10年度砂防関係事業概要

1. 事業概要

平成10年度砂防関係事業については、土石流、地すべり、がけ崩れ等の土砂災害を未然に防止し、県民の生命と財産を守り、安全で安心して暮らせる県土づくりのため、第9次治水事業七箇年計画及び本年度を初年度とする第4次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画に基づき、砂防関係施設の整備を促進する。

事業展開については、公共事業の厳しい現状を踏まえ、事業実施箇所の妥当性、緊急性の観点から事業の再構築を行い、砂防関係施設の重点的、効率的な整備を図るとともに、総合的な土砂災害対策を推進する。

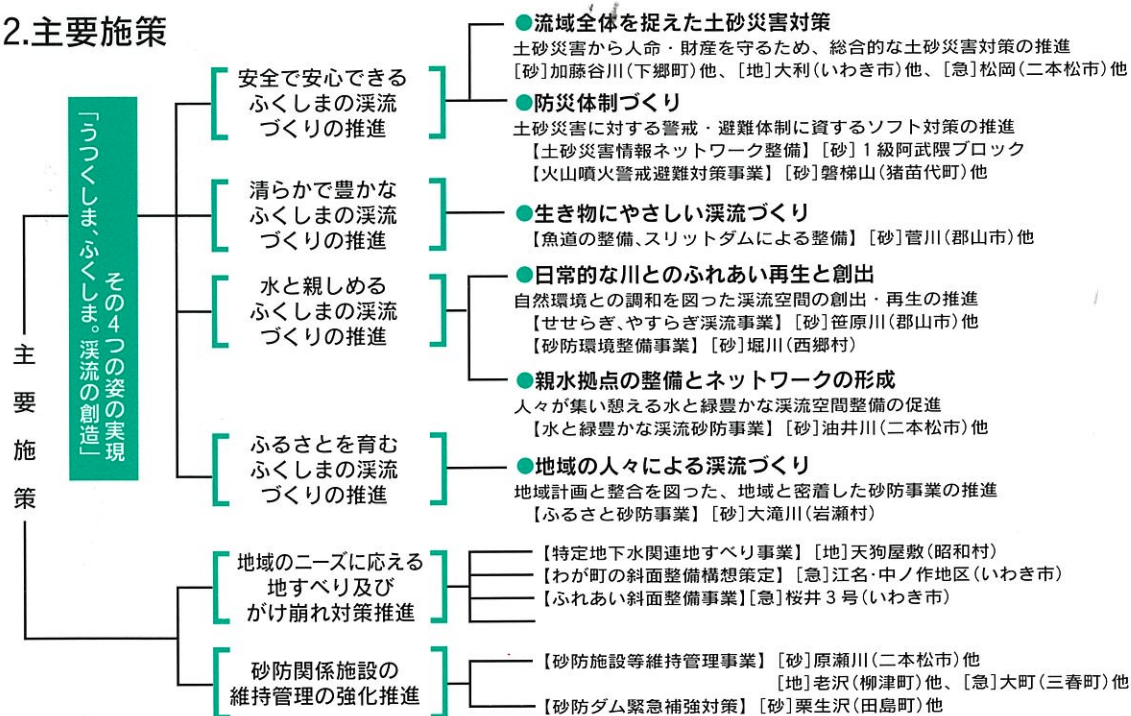
また、自然環境との調和、地域の活性化、施設の維持・管理の強化等、県民の様々なニーズに応え、地域の声を反映した信頼感のある安全で安心できる県土の形成に努める。

●土砂災害危険箇所整備状況 (平成10年3月末現在)

整備率は県要対策箇所ベース。※()内は直轄分を含む。

土砂災害危険箇所	箇所数 ※	県要対策 箇所数	H8年度末		H9年度末		H10年度末見込み		全国整備率 (H6末)
			箇所数	整備率	箇所数	整備率	箇所数	整備率	
土石流危険渓流	1,356(1,367)	1,356	212	15.6%	225	16.6%	232	17.1%	約20%
地すべり危険箇所	159(160)	159	38	23.9%	42	26.4%	45	28.3%	約20%
急傾斜地崩壊危険箇所	1,132	885	235	26.6%	253	28.6%	262	29.6%	約25%

2. 主要施策



3. 平成10年度当初予算(県予算)

区分	事業名	事業名(千円)	箇所数	区分	事業名	事業名(千円)	箇所数
補 般	砂防事業(通常、火山、環境、修繕)	6,420,200	111	県 単	施設整備費(砂防、地すべり、急傾斜)	573,116	41
	地すべり対策事業	1,231,000	20		調査費(砂防、地すべり、急傾斜)	99,400	—
	急傾斜地対策事業	1,565,000	34		維持管理費(砂防、地すべり、急傾斜)	81,423	—
	雪崩対策事業	201,000	4		その他	39,510	—
	情報基盤緊急整備事業	135,000	1		県単事業計	793,449	41
	計	9,552,200	170				
助 其 他	緊急砂防等災害関連費	600,000	—	直轄砂防事業費負担金	541,000		
	災害関連地域防災がけ崩れ対策事業費	6,300	—	砂防関連事業計	11,492,949	211	
	計	606,300	—				
補助事業計	10,158,500	170					

第四次急傾斜地崩壊対策 事業五箇年計画閣議決定

平成十年度～十四年度

国では第三次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画の終了にともない、今年度より第四次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画が五月二十九日に閣議決定された。

県でも国の方針を踏まえ、また、アンケートにより地域の声を反映させ、福島県版を作成した。

これは、二十一世紀において「安全で豊かな活力ある社会」を実現するために、斜面のもつ多面的な特性と人間との関わりを十分に把握し、地域の中の斜面という観点から人間と斜面との新しい関係を構築するもので、「安全・環境・活力」をテーマとしている。

労働安全衛生規則の 一部改正

—— 昨年の土石流災害を契機に
今年六月一日施行

平成八年十二月、長野県と新潟県の県境の蒲原沢において、大規

模な土石流が発生し、工事現場の作業員十四名が死亡、九名が負傷するという悲惨な災害が発生した。労働省ではこれを契機に土石流による工事関係者等の労働災害防止のため、規則の一部を改正し、規定を整備することとした。

改正の内容は、土石流危険河川（溪流）に係る工事については河川（溪流）の状況、降雨量等に応じ、工事中の安全対策として監視・誘導員の配置、土石流検知センサー等の整備が求められることになり、土石流河川（溪流）の要件の一つに市町村地域防災計画への掲載（公表）がある。

今後は、工事中の安全対策のためにも土石流危険箇所在市町村地域防災計画への掲載が急務である。

蟹ヶ沢地すべり活発化 砂防ボランティア出動

本年二月、福島市街地を流れる松川上流・蟹ヶ沢の山形県の県境に接する山形県蟹ヶ沢地区（秋田営林局管内漬場沢国有林）で、大規模な地すべりが発生し、現在も

滑動しており、五月末には直下の治山ダムが幅20mにわたって崩落し、下流への土砂流出による被害が懸念されている。このため、砂防ボランティアが同行して現地調査・検討会を実施した。

現在、県では秋田営林局、建設省、山形県及び福島市等で地すべり対策協議会を設置し、福島市では警戒避難体制をとっている。

また、秋田営林局では排水ボーリング工及び地すべり調査を実施し、建設省では、今年度に緊急対策（除石工・新設ダム一基）を実施する。

雪崩シンポジウム 本県で開催

今年度で十回を数える「全国雪崩防災シンポジウム」が、本県で開催されることとなった。我が国は国土面積の半分以上が豪雪地帯に指定されており、毎年のように雪崩による犠牲者が続出し、生活面においても多大な支障をきたしている。

そこで雪崩災害に対する国民の理解と関心を深め、雪崩災害の防止に資することを目的に毎年、豪

雪地帯で開催されている。本県開催の日時・場所は、現在検討中である。

土砂災害防止講習会・ 県内各地で開催

毎年六月の一カ月は土石災害防止月間であり、土石災害についての周知・啓蒙を目的として昭和五十八年度から実施されている。

今年度は月間の初日六月一日に建設省等の主催で「土砂災害防止推進の集い（全国大会）」が新潟県糸魚川市で開催される。

今大会は、初めて行政衛星通信システムを活用して、大会の全様を全国へ配信する。

本県では、これを各方部毎に視聴・録画し、随時土砂災害防止講習を開催する。講習会は月間全県で十五件を予定している。今年度のポイントは「労働安全衛生規則」の一部改正に伴う工事中の安全対策について。



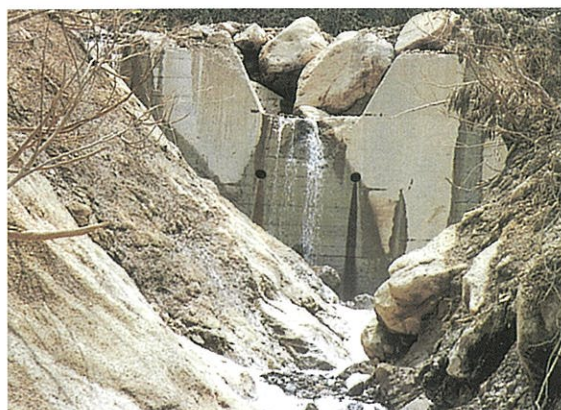
砂防事業紹介

入山沢筋(三島町) ～災害関連緊急砂防等事業～

入山沢は、一級河川阿賀野川水系に流入する溪流です。

平成8年5月12日夜半から13日未明にかけての融雪出水により入山沢筋上流部の大沼郡三島町大字浅岐地内において山腹崩壊が発生し、大量の土砂が阿賀野川水系大谷川の右支川入山沢に流下しましたが、下流の既設砂防ダムが調節機能を発揮し、下流人家への災害は免れました。

しかし、山腹は未だ脆弱であり、今後も崩壊する可能性があり、また次期出水時溪流内の不安定土砂が再び流下し、下流の浅岐集落に被害を及ぼす恐れがあることから、災害関連緊急砂防等事業により既設ダムの下流に新規ダムを建設中です。現在は通常砂防事業で施工中であり、平成11年度に概成の予定です。



全体計画概要

■事業概要

施工主体	福島県
ダム高	H=10.0m
堤長	L=62.0m
コンクリート体積	Vc=3463m ³
施工期間	H8～H11
全体事業費	401,700千円
(内訳) 緊急	101,700千円
通常	300,000千円

檀ノ浦地区(柳津町) ～災害関連緊急地すべり対策事業～

平成8年11月頃から柳津町檀ノ浦地区で地すべり現象により、一部町道に亀裂が入り、平成9年4月7～8日の降雨と融雪水により、人家直下の斜面や町営住宅の基礎部に連続する段差亀裂が入り、町道も通行止めとなりました。

檀ノ浦災害関連緊急地すべり対策事業

地すべりの原因は当地が福島県下でも有数の豪雪地帯であり、雪解けによる地下水位の上昇、合わせて降雨が重なったことにより、間隙水圧が著しく増大して地すべりを誘発させたものと考えられます。これにより、只見川への滑落による埋塞などの影響、また今後、梅雨期や台風期そして融雪期に地すべりが活発化し、土砂災害の恐れがあったため、平成9年度に災害関連緊急地すべり対策事業で対策工を施工し、引き続き平成10年度も恒久対策を実施中です。



東町地区(いわき市) ～特定利用斜面保全事業(急傾斜地崩壊対策事業)～

本箇所はいわき市江名地区に位置し、磐城海岸県立自然公園に指定されています。

江名・中ノ作地区は急傾斜地崩壊危険箇所が集中し、大変危険な状況にあります。なおかつ斜面と海岸に挟まれた狭隘な地域に人家が密集して、津波などの自然災害に対応する避難場所や住民が憩える公園が不足しています。

そのため当事業では、斜面の保全と併せて避難所や公園を整備することにより、斜面の多目的活用を図る目的から、いわき市では、平成7年度から斜面上部の創出平場を利用して公園整備事業を進めており、平成10年度概成予定です。

■事業概要 / 県事業 平成6年度～平成9年度
 全体計画 L=427m C=330.8百万円
 市事業 現場打法枠工 L=291m A=3,836m²
 排土工 V=39,811m³
 平成7年度～平成10年度
 公園整備工 A=2,900m²
 (江名公園)



事業	内容	事業費	年度
災害関連緊急地すべり対策事業	アンカー工 L=112.5m、N=149本 集水井工 N=1基 集排水ボーリング ΣL=682m 水路工 L=172m	450,000千円	H9
通常地すべり対策事業	アンカー工 L=112.5m、N=121本 集水井工 N=1基 集排水ボーリング ΣL=288m 横ボーリング ΣL=250m 水路工 L=90m	850,000千円	H9～H15



平成9年度福島県砂防協会活動報告

- (1) 全国治水砂防協会第59回通常総会
平成9年5月21日 東京砂防会館別館
- (2) 全国治水大会総会
平成9年6月4日～6日 岐阜市
- (3) 土砂災害防止月間推進の集い
平成9年6月1日～2日 吹田市
- (4) 福島県治水砂防協会 回通常総会
平成9年6月10日 福島市ウェディングエルティ
- (5) 全国治水砂防協会東北地区協議会
①第46回通常総会
平成9年7月24日～25日 松島町
②21世紀のわが町の斜面を考えるフォーラム
平成9年11月13日 仙台市
③臨時総会
平成10年1月29日 東京都
- (6) 砂防協会現地調査
平成10年1月7日～9日 静岡市、新宮市
- (7) 砂防協会研修会
平成10年2月10日 福島市福島グリーンパレス



現地調査◆東奔西走道中記

平成9年度の砂防協会の事業として、平成10年1月7日～9日までの日程で現地調査が実施され、市町村の5名の職員が2班に分かれ、静岡市と新宮市の「警戒避難体制」について調査してきました。

この内容については、2月10日の砂防協会研修会で発表されましたが、以下ダイジェストでご紹介します。詳しくは、「平成9年度・福島県砂防協会研修会 報告書」を参照して下さい。

「静岡県における警戒避難体制づくり」について（静岡県静岡市）

静岡県の防災に対するシステムや設備の充実ぶりは、確かにすばらしいものでした。

しかし、それ以上に防災に対する意識の高さがすばらしいと感じました。

住民一人一人が、防災に対する自主性を持ち、自主防災会により地域の協力体制も確立され、『自分の命は、自分で守る』が基本という考えが浸透していました。

一方、行政内部と関係機関も緊急防災支援室（SPECT）の存在が示すとおり、

『地震が発生するのを止めることはできないが、被害を最小限にすることはできる。』

『他県からの応援を待つのではなく、自力で復旧する。』

という、強い意志と団結力をもち、十分な協力体制づくりがなされていました。

このように、防災に対する全ての人々と組織の意識の高さと、そこまで盛り上げることに成功した、行政サイドのアイデアと努力が、最も優れた点だと感じました。

研修をとおして学んだことを、そのまま自分達の町でも使えるかということ、あまりにも防災に対する意識の高さに差がありすぎて難しいように思われます。

まずは、自分達行政側の意識向上を図り、その中から住民一人一人に対して、どのように防災の大切さを伝えていくか、アイデアが出せれば良いのではないかと考えます。

たぶん自分達の町ならではのやり方があると思われます。それを探すところから始めたいと思います。

霊山町建設課 大橋 留政
三春町建設課 新野 恭朗
柳津町建設課 横田 勝則



県砂防課同行者から一言

傾斜地保全係（現・堀川ダム建設事務所） 鍋野浩和

今回訪れた静岡県、静岡市の防災に対する意気込みは、非常に高く、「災害は必ず発生する。その際生き残る（助かる）ために、今できることは何か」「自分の命は、自分で守るしかない」という、災害を受け入れ、災害に備える姿勢を直に感じられたのは、今回の研修の一番の成果ではなかったかと思えます。

実は静岡は私の第2のふるさと（大学時代・ちなみに福島は第3のふるさと、実は愛知出身です）でもあり、冬でも暖かい春の日差しをイメージしていましたが、あいにく天候に恵まれず、研修期間中はみんな「寒い、寒い」を連発していました。それでも最終日には天候が回復し、日本晴れの下、富士山を見ることができたのは、静岡での研修を締めくくるとにふさわしい光景でした。（ホッ）

土石流災害と警戒避難体制について（和歌山県新宮市）

①ハード面ではなくソフト面からの対策

新宮市が危険箇所の見直しを行ったところ245箇所あることが判明した。災害を未然に防止するために、これら危険箇所をハード面で砂防ダムや遊砂地、山腹工等の工事を施工することは、莫大な費用を要するため不可能に近い。では、「災害の発生から少なくとも人的被害だけは絶対に発生させないための施策は。」ということで、危険箇所や目安雨量の公表、簡易雨量計の開発、そして警戒システムの導入により、住民への確かな情報の提供を図った。

公共事業のあり方が問われている中で、このようにソフト面からさまざまな施策が講じられたことに着目したい。

また、現在県内の各市町村では、衛生通信を利用した福島県気象情報システムが導入されていますが、この中に新宮市のような予測システムが加えられれば更に充実できるのではないかと思います。

埴町建設課 生方良一
葛尾村経済課 松本松男



②住民の意識改革

一旦砂災害により人的被害が発生したりすると、マスコミ関係等、一斉に「土砂災害で人命が失われたのは、行政の責任だ。」とその矛先が行政に向けられがちです。

新宮市では、まず「自分の命は自分で守る」を基本理念とし、ソフト面の施策を講ずることにより、防災意識の高揚を図り「何でも行政に。」という住民の意識を少しでも改めようとして取り組まれたことは意義深いと考えられます。

21世紀を目前にして、行政全般に渡りこのような考えかたを浸透させていくことが、私たちの今後の課題であり責務であると思いました。

③住民の理解

危険箇所の見直し後、住民すべてに危険箇所を公表したが、公表に当たって公表によるデメリット（危険箇所周辺の土地の価格の値下がり等）に対し住民の理解が得られるか心配されたそうです。

しかし、数件の問い合わせがあったのみであったとのことでした。

また、避難勧告を発令する際、警戒ラインを越えたからといって度々避難勧告を発令し、当たらなかった場合、「どうせ災害は起こらないだろう。」という安易な意識をもたれてしまう。このことは、実際に起こった場合に大変危険で、いわゆる「オオカミ少年」にもなり兼ねません。

避難勧告発令のタイミングは大変難しいが、この点について、「住民の理解が十分に得られるよう事前のきめ細かなPRなどの対策」が必要だと感じました。

県砂防課同行者から一言 砂防係 秋山嘉文

現地研修が1月8日午前9時からだったので、研修前日の7日に和歌山入りました。

同行した2名の方とは事前打ち合わせのときの2回（時間にすればものの3時間程度）しかお会いしていなかったので、7日に夕食を兼ねてあらためて顔合わせ会をしました。場所は宿泊施設付近の居酒屋です。自己紹介から始まり町村の話題や仕事の話などについて、2人とも話し上手で話も弾み情報交換の場としては最適であり、おおいに懇親を深めることができ、現地調査もうまくいきました。お世話様でした。

最後に、和歌山県の地酒は、本県と同様、大変美味しいので、飲みすぎに注意しましょう。

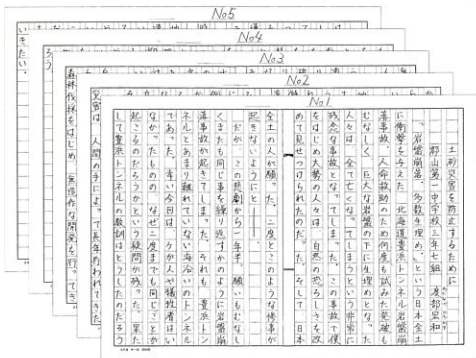
編集後記

人事異動に伴う新体制にもようやく馴れ、ふと窓外に目をやれば新緑は増々深く、隈畔に足やればねこ柳もすっかり大きく、水面もたおやかに流れていました。会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、昨今の砂防行政をとりまく環境についてですが、「見直し総点検」「コスト縮減」「地域防災」関連などが挙げられますが、様々な視点から自他ともに評価し（され）、実施する重要性を今さらながら痛感しております。特に最近では今まで以上に「地域防災」を前提とすべき2・3の事例がありますが、「地域防災」に対する意識（How to think）と事務手続き・行動（How to do）の見識の未熟さを自戒しながら、今では防災部局と積極的に連携、調整を図りながら進めております。これは、とりもなおさず、地域住民一人ひとりを対象とする公表（Publicity）・周知が目的となりますから市町村・県・国等の関係機関と連携しながら、慎重かつ迅速に進めることが大変重要であるわけです。

梅雨時期をむかえ、土砂災害が発生しやすい季節となり、会員の皆様は土砂災害防止活動など多忙な毎日をお過ごしと思いますが、何とぞ健康でご活躍されますように…。

発行●福島県砂防協会 〒960-8065 福島市杉妻町2-16(福島県土木部砂防課内) TEL024-521-1111 FAX024-521-7716
印刷●陽光社印刷株式会社 〒960-0112 福島市南矢野目字萩ノ目裏1-1 TEL024-553-4600(代) FAX024-554-4420



土砂災害を防止するために

郡山市立郡山第一中学校3年(当時)
渡部 宏和 君

「岩盤崩落。多数生理め。」という日本全土に衝撃を与えた、北海道豊浜トンネル岩盤崩落事故。人命救助のため何度も試みた発破もむなしく、巨大な岩盤の下に生理めとなった人々は、全て亡くなってしまったという非常に残念な事故となってしまった。この事故で僕をはじめ大勢の人々は、自然の恐ろしさを改めて見せつけられたのだ。そして、日本全土の人々が願った。二度とこのような惨事が起きないようにと――。

だが、この悲劇から一年半。願いもむなしくまた同じ事を繰り返すかのように岩盤崩落事故が起きてしまった。それも、豊浜トンネルとあまり離れていない海沿いのトンネルであった。幸い今回は、ケガ人や犠牲者はいなかったものの、なぜ二度までも同じことが起こるのだろうかという疑問が残った。果たして豊浜トン

ネルの教訓はどうしたのだろうか。また二度も起きたということは、これから先も再び起こりうる可能性があるのではないのかと思う。

土砂災害の中には岩盤崩落以外にも土石流、地滑り、がけ崩れなどがあげられる。日本全土でも毎年梅雨の時期や台風の際に、このような土砂災害が必ずといってよいくらいみられる。だが今年、例年とは少し違って特に多いようである。梅雨のころから、土石流、地滑りが各地で相次いでいる。村ごと飲み込む土石流などは、テレビ画面でさえ凄まじいもので実際にこの事故に遭遇していたら例えようもないほど恐ろしいものだろう。しかし毎年このことながらなぜ防止できないのだろうか。一応現段階の対応として、砂防ダムなどの建設は行っているのだが、それが役に立たない場合もある。自然は、僕達にとってそれほどにも恐ろしいものなのだ。

しかし、自然災害とはいえ、これらの土砂災害は、人間の手によって長年行われてきた無造作な自然破壊や無意味な開発などによる人的災害なのではないだろうか。

「土砂災害」この災害はなぜ起きるのだろうか。考えてみるとこれはいくつかの条件が重なりあった時初めて起こるのだろう。起こりうる条件としてまず挙げられるのは、森林破壊である。地面は樹木が存在することにより水を蓄えることができる。しかし、樹木がないということは、土が水を蓄えることができず、雨が多量に降ると、吸収されなかった水が、流れ出しちゃうのだ。それに、梅雨の長雨や、台風の時の集中豪雨が拍車をかけ、次第に土石流や地滑りを起こしてしまうのである。これらのことを考えると、今すぐ防止対策を考えて、実行していかなければならないと思う。

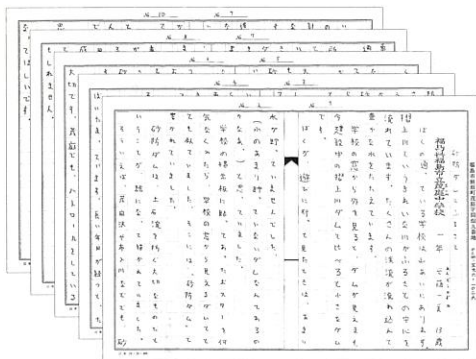
まず最初に行われなければならないことは、自然破壊に歯止めをかけることだ。今まで人々は、環境を

考えず快適な生活を得るために森林伐採をはじめ、無造作な開発を行ってきた。その結果が今、現実となって人々の生活を脅かしているのだ。そのため、森林伐採などの緑を減少させることを止め今まで人間が行ってきた過去の過ちを反省することがまず大切だろう。そしてこれからどのようなことを行っていけばよいのかということ、今後様々な視点から思考を変えて見つめ直していかなければならないと思う。

そのためにはやはり、森林の増加、すなわち緑を地球上に増やしていくということが、一番効果的ではないかと思う。緑を増やすことによって地盤が固まり、地盤が固まれば土砂災害は起こりにくい。また緑化は砂漠化の抑制などにもつながり、様々な問題を解決するという利点もあるのだ。しかし、森林を増やすことは、個人の力で実現することは難しい。しかし、自分にもできる土砂災害防止策を自分なりに考えてみた。やはり、一人一人が真剣に考えていかなければならないことだろう。

例えば、資源に目を向けてみると、現在紙は世界中で莫大な量を消費している。しかし、一人が少しずつ節約することによって、資源の節約と同時に森林伐採の減少にもつながり、十分土砂災害の防止にもなっているのだ。このように、小さなことでも先を見通して取り組むことが、土砂災害防止への大きな一歩ではないかと思う。

これから時代は、20世紀から、「僕達の時代」21世紀へと進んでいく。将来この地球を美しく安全な世界にするためには、僕達は木の植林を行って土砂災害の発生を防いだり、今残っている自然を大切にバランスを損ねないようにするといったような、子や孫の世代につながるようなことを実行していかなければならない。これを実行してこそ21世紀への新たな道を進むことができるだろう。あの悲劇を二度と繰り返さぬように、土砂災害をはじめ様々な問題に関心をよせていきたい。



砂防ダムとふるさと

福島市立茂庭中学校1年(当時)
安藤 一美 君

ぼくの通っている学校は山あいにあります。摺上川というきれいな川がふるさとの中心を流れています。たくさんの溪流が流れ込んで豊かな水をたえています。学校の窓から外を見ると、ダムが見えます。今建設中の摺上川ダムと比べると小さなダムです。

ぼくが遊びに行っていたときは、あまり水が貯っていませんでした。

(水のあまり貯っていないダムなんてあるのかなあ。)とっていました。

学校の掲示板に貼ってあったポスターを何気なくみたら、学校の窓から見えるダムととても似ていました。そこには「砂防ダム」と書かれていました。

砂防ダムは、土石流を防ぐ大切なものだということが、

絵になって描かれていました。

そういえば、茂庭沢や布入川などでも、砂防ダム工事が盛んに行われています。その小さな川にいくつものダムを作っています。どうしてそんなにたくさんの砂防ダムを作るのか、ぼくは不思議だったのです。たくさんの砂防ダムがあった方が、どこで起こるかかわからない土石流などを防ぐのに役に立つからだと思います。

工事の人達は、深い谷を流れる川で仕事をしています。作業場に行くときには、前もって作っていた道から下ります。その道はすごい坂道になっていて、ぼくは見ていると恐くなってしまいます。コンクリートミキサー車も砂防ダム作りのために狭い道を下りて行きます。大きな物などは、ワイヤー等を使って下ろします。

暑い日も寒い日も、工事の人達は働いているので(大変だなあ)と思いました。

最初に作った砂防ダムには、石や砂がいっぱいたまっています。長い年月が経つと、たくさんの砂や石がたまっていくので、(いくつもの砂防ダムを作らないと間に合わないのかなあ。)と思います。災害が起こってからでは遅いので、砂防ダム工事を日頃から着実に進めていくべきだと思います。

鹿児島県の出水市で起きた土石流災害は、大変な被害をもたらしました。死者が十九人も出てしまいました。新聞の記事によると、砂防ダムの工事の遅れも原因の一つとなっているようです。大雨と地震などの悪条件が重なって地盤が緩んだこともあります。

山間地の多い日本列島には、土石流や地滑り、雪崩などが起きそうな危険箇所が、十数万カ所もあります。ぼくの住んでいるふるさとその中に含まれます。同じ悲劇を繰り返さないために、全国の危険箇所を点検して、砂防ダムなどの建設を進めてほしいと思います。

災害を防ぐには、日頃の安全パトロールも大切です。茂庭でも、パトロールをしている車を見かけます。また、危ない斜面の所は交通止めにし、補修工事をしています。

土石流などの危険箇所を近くにかかえる場所では、地元の自主対策も忘れてはいけません。危険箇所には近づかないように心がけていでも、ぼく達にできることは、微々たるものです。小さな砂防ダムですが、これがないと大きな災害が起きてしまうのです。それを防ぐ大きな役割を果たしているのです。国や県など行政は、もっと積極的に危険箇所を調べてほしいと思います。

ぼくのふるさと茂庭では今、摺上川ダム工事をやっています。山を削り、たくさんの木がなくなりました。土がむき出しになっているところもあります。ダムの水は大切な生活用水になりますが、ダム工事が長引いて、完成が遅れてしまいました。その間に、大雨などが降れば、土石流などが起こってしまうかもしれません。

茂庭のダムの完成をたくさんの人が待っています。早くダムが完成してほしいです。他のダムの建設場所では、ダム工事の中止を検討しているところもあります。茂庭ではそんな事がないように、必ず完成させてほしいです。

砂防ダム工事、日頃からいろいろな所で進めてもらいたいです。「備えあれば、憂いなし。」という言葉も教えてもらいました。いざというときを考えて、日頃、備えをしっかりしていれば、心配することなく安心して過ごせると思います。

ぼくのふるさと茂庭でも土石流が起きないとは限りません。二度と出水市で起きたあんなひどいことが起きないようにしてほしいです。

学校の窓から見えるダムには、いろいろな思いや願いが託されています。

安心してふるさとで暮らせる安全な日本になってほしいです。